上海オーケストラ物語

西洋人音楽家たちの夢

榎本泰子

春秋社

日文 701681234

江苏工业学院图书馆
藏书章

上海オペラ物語

西洋人音楽家たちの夢

榎本泰子

〈著者略歴〉
榎本泰子（えのもと・やすこ）
1968年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。学術博士。同志社大学言語文化教育研究センター助教授を経て、現在中央大学文学部助教授。著書『楽人の都・上海——近代中国における西洋音楽の受容』（研文出版、1998年）でサントリー学芸賞、日本比較文学会賞を受賞。訳書に『君よ弦外の音を聴け——ピアニストの息子に宛てた父の手紙』（傅敏編『傅雷家書』の抄訳、樹花舎、2004年）がある。

上海オーケストラ物語　西洋人音楽家たちの夢

2006年7月20日　第1刷発行

著　　者　榎本泰子
発 行 者　神田　明
発 行 所　株式会社　春秋社
〒101-0021　東京都千代田区外神田2-18-6
電話　(03) 3255-9611（営業）
(03) 3255-9614（編集）
振替　00180-6-24861
http://www.shunjusha.co.jp/
装　　丁　中山銀士
印 刷 所　株式会社　太平印刷社
製 本 所　株式会社　三水舎

© Yasuko Enomoto, Printed in Japan 2006
ISBN 4-393-93508-X　定価はカバーに表示してあります

プロローグ　世紀を流れる河

上海の中心を緩やかに流れる黄浦江。河をはさんで街は二つの顔を持っている。河の東岸＝「浦東」には未来的なテレビ塔や、きらめく高層ビルが立ち並ぶ。その風景は、二十一世紀の中国の象徴としてすっかりおなじみになった。

河の西岸＝「浦西」のウォーターフロントには、どっしりした石造りの建物が軒を連ねる。背の高い時計台や、長い円柱をあしらった建築群は、まるでヨーロッパの街のようだ。今では外壁もくすんでしまい、周囲の高層ビルに比べて目立たなくなってしまったが、かつてはこれこそ上海の表玄関であり、多くの旅人を驚かせてきた。

百年前の上海は、ヨーロッパ人の街だった。イギリス人が貿易の拠点とするために開いた港町に、さまざまな国籍の人々が住み着き、長い年月にわたって独自の生活を築き上げてきた。当時外国人

が暮らした地域を「租界」と呼ぶ。彼らは上海租界に、ヨーロッパのライフスタイルをすべて持ち込んだ。着るもの、住む家、食べるもの、競馬やテニスやダンスパーティーまで、祖国にいるのと同じような暮らしを求めてやまなかったのである。こうして中国の地に、西洋の街が生まれた。

ウォーターフロントの北端に一つの公園がある。現在は黄浦公園と呼ばれ、巨大なコンクリートの「上海市人民英雄記念塔」がそびえたつ。昔、ここはパブリックガーデンといい、ヨーロッパ人の憩いの場だった。――緑の木々の間に遊歩道が設けられ、シルクハットの紳士とドレスの淑女が腕を組んでそぞろ歩く。ベンチに腰を下ろせば川面をわたる風が心地よい。屋根の付いた音楽堂では白い制服に身を包んだ楽隊が演奏しており、軽やかな調べが耳をくすぐる――。

パブリックガーデンの楽隊演奏。それは上海租界に暮らすヨーロッパ人にとって、貴重な楽しみの一つだった。遠く祖国を離れ、アジアの地で暮らす彼らは、いつもヨーロッパ文化の香りを求めていた。名画や彫刻をヨーロッパから持ってくることはできないが、楽器と楽譜を持ってくることはできる。彼らは自ら演奏し、やがては楽隊を創設して市民の楽団に育てた。小さな楽隊が、東洋一のオーケストラと呼ばれるまでの道のりは、上海におけるヨーロッパ人たちの生活史にそのまま重なる。

これまで上海租界の歴史が語られる時、音楽文化に焦点を当てたものはほとんどなかった。音楽は石造りの建築と異なり、形として残ることがない。上海のヨーロッパ人たちが聴いていた音楽は、百年後の私たちにそのまま届くことはない。しかし、彼らが追い求めたものを、文字に記された資

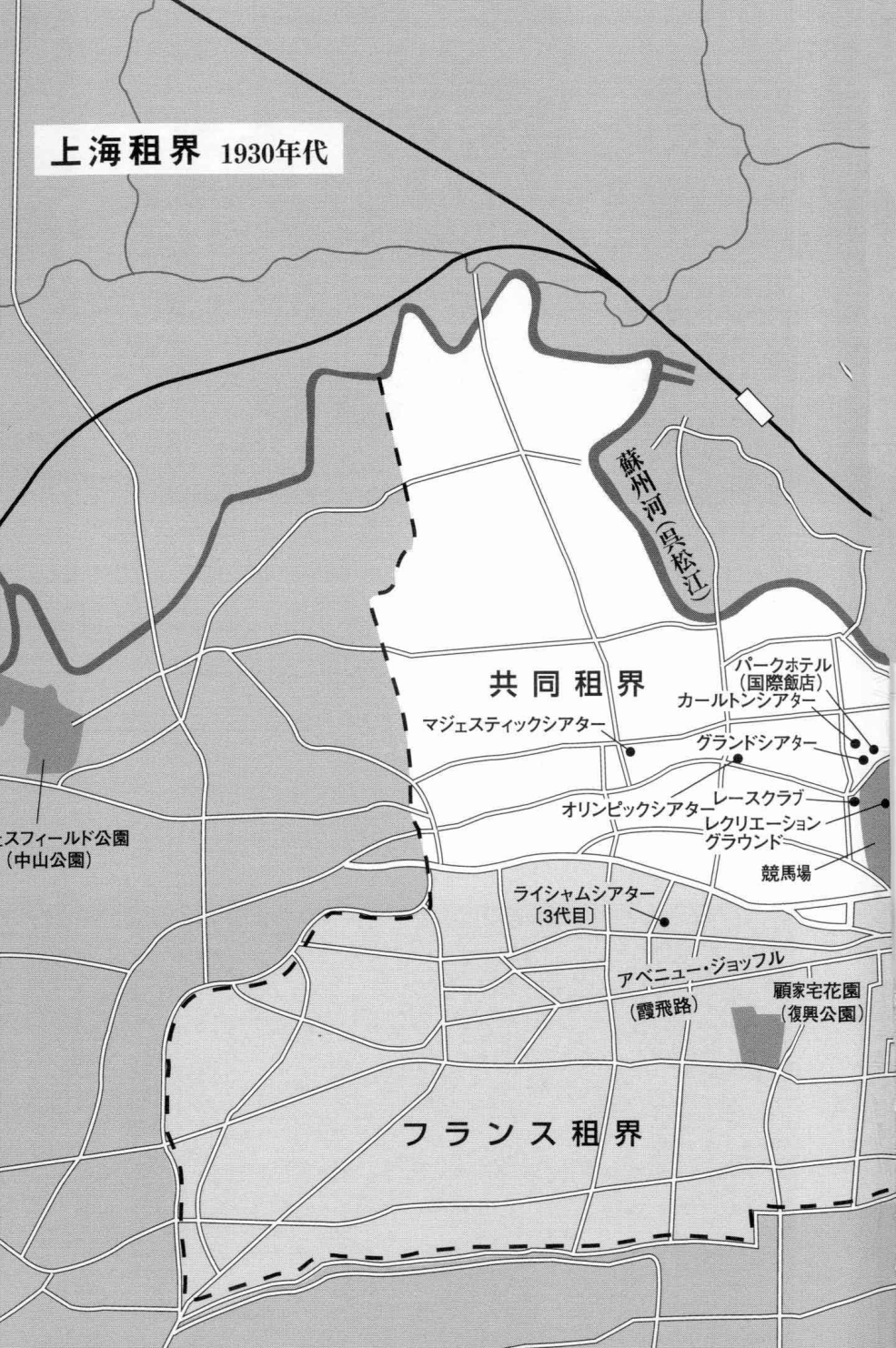
此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

料から解き明かすことはできる。なぜ音楽家たちは祖国を離れ、アジアの地にやってきたのか。租界という狭い空間で、どのような演奏活動が繰り広げられたのか。一つの楽隊が、さまざまな困難にもかかわらず維持され続けたのはなぜだったのか――。

本書で綴られるのは、上海のヨーロッパ人が愛した「街の楽隊」の物語である。十九世紀末のアジアに花開いた西洋音楽は、戦争や革命の時代を経て中国人に受け継がれ、今日なお「上海交響楽団」として生き続けている。三つの世紀をまたがって、外国人から現地人へと担い手を変えながら、存在し続けているオーケストラは世界でも例を見ない。私たちは「街の楽隊」に関わった人々の足跡を丹念にたどることによって、ヨーロッパの音楽史にはついに名を残すことがなかった音楽家たちが、上海でどんなに大きなものを築いたかを知るだろう。また、上海と海をはさんで向かい合っていた日本が、西洋音楽を受け入れる過程でどのような影響を受けていたかに気づくだろう。そして近代以降の世界の音楽文化の中で、上海という街がどのような位置を占めていたのかが見えてくるだろう。「街の楽隊」の物語は、上海を舞台の中心とし、海を越えて世界をめぐった人と音楽の物語である。

黄浦江の河辺にたたずみ、波音に耳を傾けていると、時折船の汽笛が響く。その向こうにかすかにトランペットの輝く音色が聞こえてきたら……さあ、物語の幕を上げよう。

虹口公園
(魯迅公園)
歌舞伎座
共同租界
アスターハウス
虹口
英国領事館
日本領事館
ガーデンブリッジ（外白渡橋）
黄浦江
南京路
パブリックガーデン（黄浦公園）
タウンホール
サッスーンハウス（和平飯店北楼）
パレスホテル（和平飯店南楼）
バンド（外灘）
南京大戯院
浦東
福州路小菜場
〔楽団練習場〕
豫園
旧県城
N
南市
租界の境界ライン


上海租界 1930年代
蘇州河（吳淞江）
共同租界
パークホテル
（国際飯店）
カールトンシアター
マジェスティックシアター
グランドシアター
オリンピックシアター
レースクラブ
レクリエーション
グラウンド
競馬場
スフィールド公園
（中山公園）
ライシャムシアター
〔3代目〕
アベニュー・ジョッフル
（霞飛路）
顧家宅花園
（復興公園）
フランス租界

1936年、グランドシアター

多国籍都市・上海に生まれたオーケストラ

工部局交響楽団（指揮：マリオ・パーチ）

「第九」のリハーサル

目次

上海オーケストラ物語　西洋人音楽家たちの夢

プロローグ　世紀を流れる河　i

第1章　上海に生まれた「西洋」（1845〜）　3

1　イギリス人の街……5
2　大商人の「投資」……9
3　アマチュアたちの活躍……12
4　コンサートの始まり……17

第2章　パブリックバンドの誕生（1879〜）　27

1　「街の楽隊」の成立……29
2　市民の暮らしとブラスバンド……34
3　職業音楽家の役割……41
4　上海の楽隊と天津の楽隊……48

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第3章　ドイツ人音楽家の運命（1906〜）　57
1　オーケストラへのあこがれ……59
2　変貌する街の音楽……69
3　捕虜となった音楽家たち……78
4　エンゲル・オーケストラと日本人……82
5　「楽長」ミリエスの音楽人生……93
第4章　名指揮者の登場（1919〜）　107
1　第一次大戦中の苦境……109
2　マリオ・パーチの賭け……111
3　工部局交響楽団の誕生……126
4　黄金期の演奏会……128
5　ロシアから極東へ……138
6　世界の中の上海……142
7　マエストロの活躍……150

第5章　多国籍都市のシンフォニー（1929～）　157
1　揺れ動く街……159
2　中国人と西洋音楽……163
3　楽団存続問題……180
4　租界の終焉……197
エピローグ　日本人と「上海交響楽団」（1942～1945）　209
注…239
あとがき…265
図版出典一覧　20
参考文献　14
楽団史年表　7
索引　2

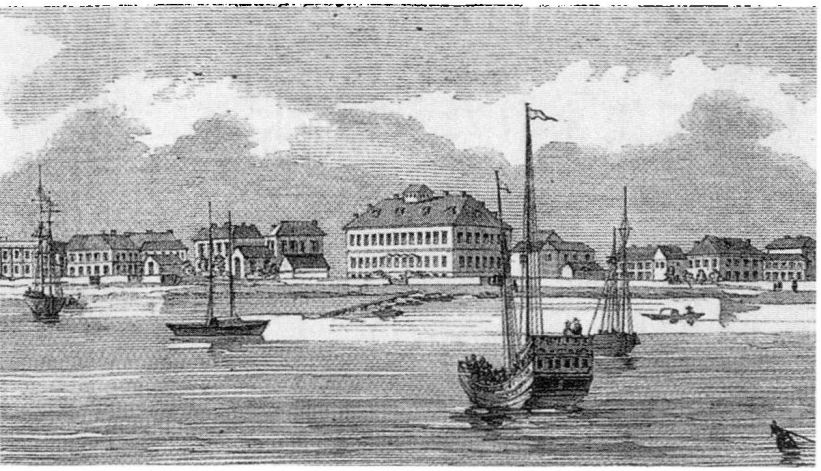
上海オーケストラ物語

西洋人音楽家たちの夢

第 1 章

上海に生まれた「西洋」

1845年……



黄浦江から望んだバンド（The Bund, 中国語では外灘（ワイタン）、1850年代。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com